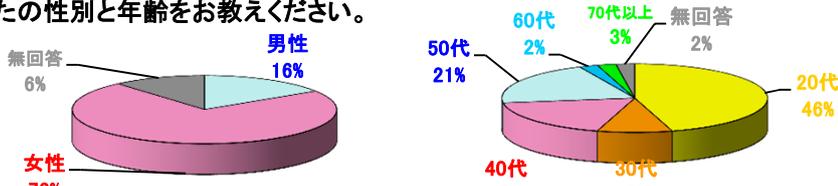


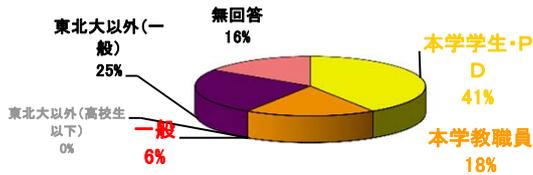
# 第9回東北大学男女共同参画シンポジウムでのアンケート集計結果

上記シンポジウムに参加された方々に、今後のシンポジウム開催の参考とするため、内容等に関してアンケートで伺った。参加者約114名のうち、44名の方から回答をいただいた。

## Q1 あなたの性別と年齢をお教えてください。

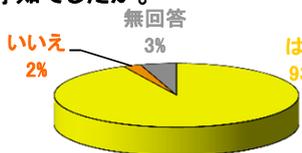


## Q2 ご職業(もしよろしければ、会社名、職名も)をお教えてください

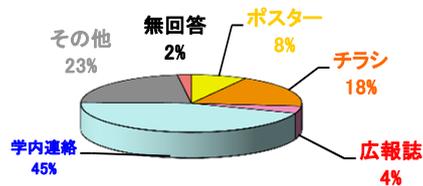


一般(アンケート記載分):  
仙台市職員、自治体男女共同参画担当、他大学職員、森林総合研究所職員、宮城県庁職員

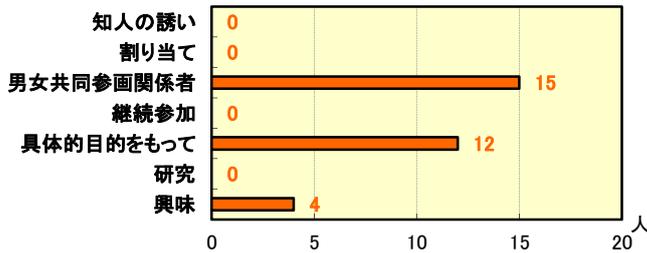
## Q3 これまでに男女共同参画について何かご存知でしたか。



## Q4 このシンポジウムのことをどこでお知りになりましたか。

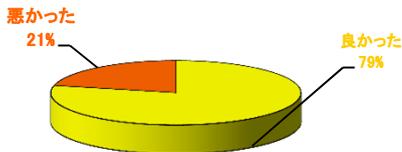


## Q5 このシンポジウムに参加された動機は何ですか。(複数回答可)(有効回答のみ)

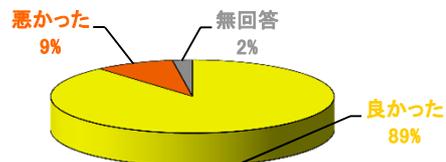


具体的目的の内訳:  
内閣府男女共同参画局長のお話を聴きたかったので  
大学における男女共同参画に関する知識を深め、  
学内制度の計画立案の参考とするため/研究部門受賞者のAAの正当化理由に関心があった/女性研究者モデル育成事業3年目にあたり、収束と継続に係る情報収集/男女共同参画について興味があった/大学がどのように男女共同参画に取り組んでいるのかという姿勢を確認したかった/幅広い視点で男女参画について考えていきたいと思った/現状把握と今後の見通し/内閣府の情報が入ると思った。

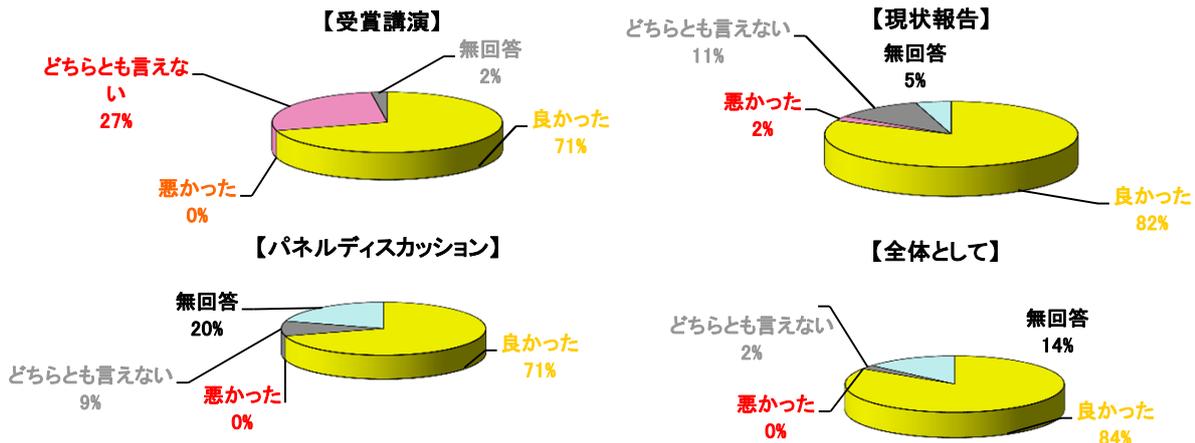
## Q6 開催日時について



## Q7 開催場所について



## Q8 シンポジウムの内容について



## Q9 内容についての感想(抜粋)

- ※ 東大の女性限定公募の取り組みが大変興味深く、参考になった。フロアーからの意見(東京理科大の方)が大変興味深かった。
- ※ 今年度の沢柳賞の応募件数、受賞件数が例年より減っているのが気になりました。
- ※ 沢柳賞の茂木さんの発表で、男女共同参画において「救済されるべく女性」というのは具体的にどう  
いう人のことなのか質問してみたかった。江原様の公演は本音がきけて面白かった。
- ※ 江原先生の基調講演に大変好感をいたしました。パネリストの皆様の力強いご発言に心動かされまし  
た
- ※ 様々な立場の方の話を聞くことによって、男女共同参画の現状・取り組みを知ることができたように思  
う。また女性が生活しやすい社会というのは、男性、子供からお年寄りまでが生活しやすい社会なの  
ではと感じた。
- ※ 首都大は全員任期制であるはず。そこでは「迷惑をかけない」という「規範」は女性教員にも男性教員  
にもまったく同じく適用されるのでは？任期制が拡大されることにより、当然の権利である育休(しかも  
無給の)が取りにくくなることはこの「規範」から当然に導かれることである。「任期制」を無視した議論  
には意味がない。
- ※ 国立大の方が、男女共同参画施策が実施されているのにもかかわらず、女性教員比率は公・私大の  
方が多いということが、国立大に在籍しているので非常に残念な現状であると思いました。
- ※ 法学的視点での議論が面白かったです。
- ※ 大きな問題は、共働きか、そうでないか。ではないでしょうか。大学と異なり「転勤」が必須の職場では  
難しい面もある。
- ※ Affirmative Actionやモンゴルの現状など、初めて学んだことでしたので大変勉強になりました。女性  
は休業よりも働き続けることを望んでいるなど、「女性が働きやすい環境づくり」に対する考えに男女  
差が見られたことは重要だと思います。特に理系分野に進学する女性そのものを増やすように、女子  
高生に対する説明会やイベントを積極的に行っていく必要性を改めて感じました。
- ※ 江原先生の本質論的なお話をもう少し伺いたかった。
- ※ PAについての議論があり良かった。PAの功罪も論じられるとなお良かったが、今後を注目したい。
- ※ もう少しディスカッションを聞きたかった。
- ※ 女性研究者の採用の問題は公共財供給問題と同じ問題の構造があると思った。
- ※ 日大、東大、東北大の実例が聞けて良かったです。
- ※ とても勉強になったと同時に心強く思った点も不安に思った点もある。しかし、どちらかという、自分  
は研究を続けていくことができるのか不安に思ったことの方が多い。それが現状なのだと思う
- ※ 様々な大学の取り組みに対する姿勢を知ることが出来たので、非常に良かったと思う。
- ※ 質問の時間も欲しかった。
- ※ 男女共同参画社会の形成に向けて、企業やNPO団体、地域、行政と大学との連携についての話をも  
う少し聞きたかった。
- ※ 東北大のパネルディスカッションのレジュメもあるとうれしかったと思いました。
- ※ 今まで考えていた以上に、大学で女性が研究を続けていくには厳しい状況なのだと感じました。制度  
を整えていくと同時に、大学や男性教員の意識改革が必要だと思いました。
- ※ 育児・子育て制度の男性取得率が低いとありましたがこれは共働きなのかどうか知りたかった。
- ※ 具体的に現場の意識改革をするには何をしたらよいかを考え、そして実行すべきであると思う。  
両立支援策が、男性は仕事、女性は仕事(研究)も家庭もと負担が増えることになってはいけないとい  
うのは忘れてはならない。非常に重要だと思った。
- ※ 去年より、講演内容がシンプルでとてもわかりやすかった。東大や日大など、他大学の男女共同参画  
の取り組みが聞けて大変参考になった。

## Q10 男女共同参画に関連したシンポジウムで、希望の企画(抜粋)

- ※ 企業内での取り組みも大学・研究機関にとって勉強になるのではないかと思うので、企業の話も聞きたい
- ※ 若手女性研究者の具体的な支援策について情報提供をしあう企画をしていただけるとありがたいです
- ※ 企業と行政と連携した日本の将来を見据えた女性の能力活用についてのシンポジウムを市民に公開してやって欲しい。
- ※ 企業などの男女共同参画の現状、子育てもしながら企業で指導的に働いている人の話を聞いてみたい
- ※ 実際に産休・育休をとった男性・女性の声を聞きたかった。どのような苦労があったかなど・・・
- ※ 海外の取り組みも知りたい。
- ※ 大学生の就職感・結婚感などをとりあげていただければと思います。
- ※ 男女共同参画推進等に係った経験者のシンポジウムを同じテーマで男女別に関き、それぞれの本音等を知る機会もあればよいのではないか。(一回総括の必要あると思う。)
- ※ 女性研究者の採用と能力主義との関係について、基本的な考え方を知りたいと思った。
- ※ 本学の職場で実際に性差別を受けた方々の具体的なお話を聞いてみたいです。
- ※ 男女共同参画はどうしても女性の側に焦点が行きがちだが、男性の理解がないと成立しないと思う。同じポジションを争うことになる。もしくは地位を女性によっておびやかされるかもしれない男性の側からの表面上ではなく率直な意見を聞いてみたい。
- ※ 高校における男女共同参画社会の意識を高めるために、大学や企業で活躍している方の講演会、サイエンスエンジェルは高校生に年齢も近く将来出合う問題への取り組み、考え方、大変参考になる。
- ※ 大学で研究されている女性の方で、若手の方のお話を伺いたいです。どのようなキャリアを間が手いるのか、研究を続けていく上でどのような困難があるかなど。
- ※ 問題点や課だしだけでなく、実際の取り組みに対する結果、現状について具体的に知りたいです。
- ※ たとえば女性研究者、それを抱える研究室、など、現場のもっと具体的な声がわかるような企画があるとよいなと思った。
- ※ 読売新聞社で、男性も育児休暇を若い人達が結構取っていて、皆とりやすいふんいきになったとの話がありました。等、他もあれば。女性に人気のある企業はどうなってる？等

## Q11 東北大学における男女共同参画推進、または学問・教育におけるジェンダー問題についての意見(抜粋)

- ※ 教職員だけではなく、男子学生にも、問題を意識させて欲しい。数値目標を達成するのもいいが、教育内容として、これから研究者になるべく人達にも理解をうながすと、将来的に社会全体の意識が上がると思う。
- ※ 理系の女性研究者増加・支援に傾斜している。全学的な男女共同参画事業にするには、現在のあり方を再検討する必要があるのではないか。
- ※ ・女性枠での採用が急激に広まりつつある中、優秀な女性を他大学に採られてしまうような気がしています。  
・産休はとっていい”制度”になっていても、産休を取れるような”雰囲気”ではない研究室が大部分であるのが実情です。それも、教授の一存で決まるのが現状ではないでしょうか。
- ※ 東北大学における先進的な取り組みについて本学にご紹介いただけると、本学が目指す科学技術分野への女性進出の増加に追い風になっていただければと思います。その際にはご教示をいただけますようお願い致します。

- ※ ・法学研究科長に女性の先生がなられたということは大きなことと思います。  
・いろいろな男女共同参画のシンポジウムをきいてもなかなか問題解決の方向性は難しいと思いました。
- ※ ・最近女性学生に対し、特に「仕事(プロフェッショナルに)として」働くということは何かという教育が必要と思うのですが、そういう視点、機会てありますでしょうか。
- ※ 私は理系のM1ですが、女性であるから困ったことはそこまでありませんでした。あえて問題点を考えるとすれば、理学研究科に女性が少ないということです。サークルにも所属していましたが、そこも女性が少なかったため、大学生活を通して女性の友人が増えにくかったように思いました。
- ※ いまどき、ただ単に「女性教授はいやだ」などと考える男性教授はそれほどいないのではないだろうか。それなのに、本日のシンポジウムの前半は、さながら「男性教授支配報告発表会」の如くであった。何か間違っているのではないだろうか。
- ※ 女性休憩室の整備をはじめとして、研究科・部局間の格差が大きいと思います。工学部など積極的に進めている部局は良いと思いますが、女子学生・女性研究者がいるにもかかわらず「形だけ」設置されているが管理がほとんどなされていない部局もあるので、全学均一な質にするのが課題だと思います。
- ※ 初めてこのようなシンポジウムに参加しました。問題意識を持っている人たちは、真剣に取り組まれています。そうでない人はあまり考えていないと思うので、もっと、いろんな人に興味をもってもらうことが必要かと思いました。
- ※ 東大が行っているような「育児を行う男性研究者が居心地のいい環境作り」という取り組みを進めてほしい。そういう意味でも、学内保育園の整備を今後もいっそう進めてほしい。
- ※ 学部生・院生と思われる参加者に男性が少ないように感じました。研究者だけでなく一般の男子学生に対する啓発もお願いできればと思います。
- ※ 子育ては男女がともに担い、責任を分かち合うという観点から、女性研究者への支援とともに、男女の理解と参画もかかせないと思います。そのアプローチは何かできないでしょうか。  
本市の(国も県も)政策形成にかかわる審議会において、女性の専門家がいらないということで、女性の委員登用がなかなか進んでいません。女性の研究者が増えることは研究分野だけでなく、各種審議会にも女性が増えることにつながり、政策形成にも寄与することになると思います。そういう意味でも本日のシンポジウムに出席し、大変心強く感じました。
- ※ シンポジウム等の開催により、男女共同参画についての理解は深まったが、本当に理解すべき立場の人は来ているのだろうか?と思った。このままだと温度差が拡大してしまうのではという心配を感じた。  
学内で男女共同参画の授業ができれば音響も亦たすのでは?
- ※ 仙台の高校の共学化に関心があります。共学化にそこまでのメリットがあるのか?
- ※ 東北大学は、制度の充実には本当に素晴らしく、このように聞く機会があると感謝する。  
しかし、男性の側への制度の理解が足りないことや、元が男性社会なので、実情は女性への妨害(ポストを奪われることに対して)が存在しているのではないかと思う。  
これは男性同士でも十分に有り得る問題だが、女性だから妨害しやすいだとか、男女共同参画を外から見ているには興味があるが、ポストを争う相手として女性がいるという、自分を巻き込んだ形での男女共同参画への意識が高い男性は非常に少ないと思う。
- ※ 教のシンポジウムで、他大学に比べて東北大学は男女共同参画問題への取り組みが進んでいることを感じました。ただ女性教員の比率はまだ低い方であるということなので、今後増えていくことを期待したいです。
- ※ 女性だけの意見ではなく男性目線の意見も聞き、それを含めた対策も必要であると思います。
- ※ 女性教員、人的構成が改善できない理由がH13年から変わっていないとのことで、やはり何か解決すべき基本的な部分の対策が進んでいないのかなと思った。
- ※ 多くの学生が、こういう場に積極的に参加して学生のうちから意識改革をしてほしいと感じた。
- ※ 大学での使命も理解しつつありますが、大学での限界を感じます。国や県や市との役割分担をどうすべきか等もわかると、あるいは考えていただけないかと感じています。